

令和 6 年 6 月 4 日現在

機関番号：11401

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01242

研究課題名（和文）「シェイクスピア崇拜」と18世紀イングランド娯楽ビジネス

研究課題名（英文）'Shakespeare Worship' and the Entertainment Business in the Eighteenth Century England

研究代表者

佐々木 和貴（Sasaki, Kazuki）

秋田大学・名誉教授・名誉教授

研究者番号：20145105

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,600,000円

研究成果の概要（和文）：従来、18世紀における「シェイクスピア崇拜」という事象は、文学史的な観点から、劇作家シェイクスピアが偶像となり、国民的詩人に変貌するプロセスとして捉えられてきた。本研究はそれがメディアの発達、テクノロジーの革新、文化事業の商品化など、18世紀イングランドの新たな社会現象と密接に関連する文化的・経済的事象であったことを検証し、今日の娯楽ビジネスにまで繋がる新たなシェイクスピア受容史を構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

18世紀イングランドは、近年、その文化的・経済的な大変動が注目を集めている研究対象領域である。本研究は9名のメンバー全員の共同作業によって、この社会がシェイクスピア受容の新たな枠組みを生み出す歴史的経緯を検証、解明した。今日の社会との関わりで言えば、シェイクスピアとその劇作品が超優良コンテンツに作り変えられ、世界遺産的なアイコンとなっていく起源が、18世紀イングランド社会の変化にあったことを立証した。

研究成果の概要（英文）：The phenomenon of Shakespeare worship in the 18th century has traditionally been viewed from a literary-historical perspective as the process by which the playwright Shakespeare became an idol and was transformed into the national poet. The research demonstrates that this was a cultural and economic event that was closely related to new social phenomena in 18th-century England, including the development of the media, technological innovations and the commodification of the cultural business. It also constructs a new history of Shakespeare's reception that is connected to the entertainment business today.

研究分野：シェイクスピア受容史

キーワード：シェイクスピア崇拜 18世紀イングランド 娯楽ビジネス メディアの発達 テクノロジーの革新 文化事業の商品化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

従来のシェイクスピア受容史では、18世紀における突然のシェイクスピア・ブームは、シェイクスピア崇拜 (bardolatry) という用語で文学史的に説明され、時には「天才ゆえの必然」として片づけられることさえあった。したがって、この時期のイングランド社会におけるシェイクスピア受容がいかなる社会的要因で著しく変化したのか、言い換えれば18世紀のどのような社会的変化が突然のシェイクスピア・ブームを引き起こしたかについての研究は、まだほぼ手つかずで残されていた。

2. 研究の目的

従来の文学史では、シェイクスピアの神格化は、ロマン派詩人や批評家のシェイクスピア礼賛との関連で登場する。しかし、それではそのおよそ100年前からすでに人気においてシェイクスピアの一強時代が始まっていたことが説明できない。さらに問題なのは、シェイクスピア崇拜の成立をロマン派の功績に帰すると、18世紀において様々な職種の間人がシェイクスピアとその劇作品を優良な商品にするために行った文化活動や企業努力、ビジネス戦略が視野に入ってこなくなることである。つまり、シェイクスピア受容それ自体が同時代の社会的諸制度の変動に対応するように変えられていった現象が、全く考慮されなくなる。

そこで本研究は本研究は9名が共同して「メディア」、「テクノロジー」、「文化事業」という18世紀イングランドの社会変動と密接にかかわる3つの新たなコンテキストで「シェイクスピア崇拜」という現象を検証し直し、将来のシェイクスピア研究のあり方をも示唆する新たな受容史モデルの構築を目指した。

3. 研究の方法

(1)「メディア」部門では、18世紀の出版業者たちが「シェイクスピア」という商品を売るために編み出した販売戦略、编者たちが生み出したシェイクスピアのテキスト編纂の方法論、そして絵画などの他のメディアの影響が、「シェイクスピア崇拜」成立とどのように関連するかを分析した。

(2)「テクノロジー」部門では、18世紀の新たな印刷技術が可能にした視覚表象とシェイクスピア・ビジネスとの関連に着目し、先端のテクノロジーを駆使したテキスト表記や口絵の銅版画が当時の娯楽文化に与えた衝撃、およびその後のシェイクスピア作品の受容に及ぼした影響を具体的に検証した。

(3)「文化事業」部門ではシェイクスピア・ビジネスの集大成としてデヴィッド・ギャリックの発案・演出によりシェイクスピアの故郷ストラットフォードで開催された「シェイクスピア記念祭」(1769)およびその副産物である様々な文化事業を、娯楽ビジネスとして捉え直すことで、その文化的・経済的実態を解明した。

4. 研究成果

研究組織メンバーの成果のうち、主なものは以下の通りである。

(1)「メディア部門」については、研究分担者の川田潤、篠崎実、桑山智成が担当した。川田は口ウ版(1709)のシェイクスピア全集から出版者トンソンの企画の意図を探り、対フランスという文化的対立概念が、そのメディア戦略上重要であったことを示した。また篠崎はシェイクス

ピア劇の編者たち(ポウブとシアポールド)を比較することで、テキスト編纂の方法論の成立と「シェイクスピア崇拜」との関係を考察した。さらに柴山は18世紀を代表する画家ホガースが絵画というメディアを通して、ギャリックの演技と原作『リチャード3世』の重層性を精緻に描き出していることを明らかにし、『「シェイクスピア崇拜」の成立に大きな影響を与えたことを検証した。

(2)「テクノロジー」部門は、研究代表者の佐々木和貴と研究分担者の大和高行が担当した。佐々木は18世紀から導入されたシェイクスピア全集の銅版画の口絵を通時的に取り上げることで、作品の見せ方・読ませ方が、新たなテクノロジーを介して、観客・読者のニーズに合わせ、またニーズを生み出しながらカスタマイズされていくという、18世紀シェイクスピア受容の特性を示した。また大和は改作劇『リチャード3世』のテキストが異なる3種類の字体を意識的に使い分けていることに着目し、シェイクスピアに対する崇敬の念が明示された、従来とは全く異なる視覚表象テキストが、そこに生まれたことを実証した。

(3)「文化事業」部門は、研究分担者の中野春夫、松田幸子、岩田美喜、吉原ゆかりが担当した。中野はフランシス・ギャストレルによるシェイクスピアゆかりの桑の木伐採という「蛮行」伝説が、実は今日ストラットフォードを娯楽文化上の聖地とする契機のひとつになったことを、解明した。また松田は、「シェイクスピア記念祭」のために、ストラットフォードがどのようにデザインされたのかを概観することで、同時代ロンドンのプレジャー・ガーデンとの関わりを指摘した。一方岩田は、ギャリックが批評家的な意識を持って、「記念祭」をフランス百科全書派へつなごうとしていたことを示し、「シェイクスピア崇拜」のフランスへの影響を探った。さらに吉原は1933年にシェイクスピア協会会長市河三喜と夫人の晴子が、シェイクスピア誕生祭のためにストラットフォードを訪れたエピソードをとりあげながら、長い18世紀に始まったシェイクスピアの誕生祝いが持つ文化的・政治的意義を探った。

以上のようにメンバーの研究成果はそれぞれの興味関心を反映して多岐にわたるが、いずれも「シェイクスピア崇拜」という現象について、新しい視点をもたらすものである。したがって、それぞれが実証的検証を継続し、さらなる成果をうみだすことによって、今後、「シェイクスピア崇拜」という現象の解明に加えて、今日につながる新しいそしてより精緻な「シェイクスピア受容史」の構築も期待できるだろう。なお、上記の研究成果は、すみやかに学術論集として書籍化し、公開する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計26件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 8件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 中野春夫	4. 巻 70
2. 論文標題 シェイクスピアの聖地を破壊した男 フランシス・ギャストレルの「蛮行」伝説	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 学習院大学文学部研究年報	6. 最初と最後の頁 69-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 大和高行 他	4. 巻 24(3)
2. 論文標題 〔翻訳〕二重の欺瞞，または，苦しむ恋人たち（1）	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国際文化学部論集（鹿児島国際大学）	6. 最初と最後の頁 117-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Tomonari Kuwayama	4. 巻 111(1)
2. 論文標題 The Influence of the Noh Play Tamura on Akira Kurosawa's Throne of Blood	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Cahiers Elisabethains: A Journal of English Renaissance Studies	6. 最初と最後の頁 30-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/01847678231175852	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Iwata Miki	4. 巻 -
2. 論文標題 Migrating Souls and Witnessing Travellers in the Dramaturgy of No Theatre	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The Palgrave Handbook of Theatre and Migration	6. 最初と最後の頁 219-228
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/978-3-031-20196-7	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yukari Yoshihara	4. 巻 -
2. 論文標題 Manga Adaptations of Macbeth	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Shakespeare and Comics (The Arden Shakespeare)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 佐々木 和貴	4. 巻 -
2. 論文標題 誰が殺した、風習喜劇を？	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 玉井暉編『コメディ・オヴ・マナーズの系譜』（音羽書房鶴見書店）	6. 最初と最後の頁 49-73頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 和貴	4. 巻 215
2. 論文標題 口絵から見た 18世紀の『テンペスト』受容	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 New Perspective	6. 最初と最後の頁 4-7頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 和貴	4. 巻 20
2. 論文標題 「シェイクスピア伝」の修正をめぐって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 十七世紀英文学会編『十七世紀英文学における病と癒し』（金星堂）	6. 最初と最後の頁 251-267頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 和貴	4. 巻 -
2. 論文標題 ベスト禍のシェイクスピア	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 佐藤猛 (編) 『ペストの古今東西ー感染の恐怖、終息への祈りー』 (秋田文化出版)	6. 最初と最後の頁 83-114頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩田 美喜	4. 巻 -
2. 論文標題 一八世紀における 作法 と 感傷主義	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 玉井暉編 『コメ ディ・オヴ・マナーズの系譜』 (音羽書房鶴見書店)	6. 最初と最後の頁 98-119頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yukari Yoshihara	4. 巻 2:1
2. 論文標題 Shakespeare in Japanese Pop Culture: Focusing on manga with Shakespearean motifs as an intercultural art collaboration genre	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 INContext	6. 最初と最後の頁 pp. 167-182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yukari Yoshihara	4. 巻 -
2. 論文標題 Japanese novelizations of Shakespeare 's Hamlet and Macbeth: the culture of hon ' an as adaptational practice	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Diana E. Henderson and Stephen O ' Neill eds., The Arden Research Handbook of Shakespeare and Adaptation(London: Bloomsbury)	6. 最初と最後の頁 pp.132-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 中野春夫	4. 巻 第69号
2. 論文標題 座付き劇作家としてのシェイクスピア、材源の(再)利用法	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『学習院大学文学部研究年報』	6. 最初と最後の頁 83-98頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中野春夫	4. 巻 第47号
2. 論文標題 シェイクスピアの小唄 デズデモナとオフィーリアの怨み唄	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東北学院大学英語英文学研究所・紀要	6. 最初と最後の頁 1-21頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川田 潤	4. 巻 第7号
2. 論文標題 私益と公益—ジョセフ・パンクスと『ボウマン旅行紀』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本ジョンソン協会編『十八世紀イギリス文学研究—変貌する言語・文化・世界』(開拓社)	6. 最初と最後の頁 109-130頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川田 潤	4. 巻 20
2. 論文標題 病を通じた自己成型—ラルフ・ソーズビーと蒐集文化	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 十七世紀英文学会編『十七世紀英文学における病と癒し』(金星堂)	6. 最初と最後の頁 19-40頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩田 美喜	4. 巻 -
2. 論文標題 ハムレットを演じる若者たちのダブリンー第九挿話「スキュレとカリュプディス」におけるスティーヴンの即興演技	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 下楠昌哉編『百年目のユリシーズ』（松籟社）	6. 最初と最後の頁 179-97頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野春夫	4. 巻 第68号
2. 論文標題 『リチャード2世』、大衆劇場版の娯楽性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『学習院大学文学部研究年報』	6. 最初と最後の頁 25-48頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 篠崎 実	4. 巻 -
2. 論文標題 『嘆かわしい一幕』 『リチャード二世』 検閲説をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本シェイクスピア協会編『シェイクスピアとの往還 日本シェイクスピア協会創立60周年記念論集』（研究社）	6. 最初と最後の頁 83-100頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大和 高行	4. 巻 第89号
2. 論文標題 [翻訳] エドワード・A・ラングハンス著「第1章 劇場」、デボラ・ペイン・フィスク編『ケンブリッジ イギリス王政復古期劇場案内』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『鹿児島大学法文学部紀要人文学科論集』	6. 最初と最後の頁 93-110頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 佐々木和貴	4. 巻 76
2. 論文標題 王政復古期におけるシェイクスピア受容 : ウィリアム・ダヴェナントの改作をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育文化学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 41-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20569/00005525	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中野春夫	4. 巻 67
2. 論文標題 シェイクスピア劇と売春産業	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学習院大学文学部研究年報	6. 最初と最後の頁 105-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 IWATA Miki	4. 巻 -
2. 論文標題 Tony Lumpkin in and out of Sweet Auburn: The Literary Topography of Oliver Goldsmith's She Stoops to Conquer	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Irish Literature in the British Context and Beyond: New Perspectives from Kyoto(eds. Hiroko Ikeda and Kazuo Yokouchi, Peter Lang)	6. 最初と最後の頁 31-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 IWATA Miki	4. 巻 -
2. 論文標題 Johnson and Garrick on Hamlet	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Johnson in Japan(eds. Kimiyo Ogawa and Mika Suzuki, Bucknell UP)	6. 最初と最後の頁 88-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yoshihara Yukari	4. 巻 -
2. 論文標題 Bardolators and Bardclasts: Shakespeare in Manga/Anime and Cosplay	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asian Interventions in Global Shakespeare: 'All the World's His Stage' (eds. Poonam Trivedi, Paromita Chakravarti and Ted Motohashi, Routledge)	6. 最初と最後の頁 146-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yoshihara Yukari	4. 巻 -
2. 論文標題 Shakespeare and Japanese Cultural Tourism	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Shakespeare and Tourism: Place, Memory, Participation (eds. Marta Minier and Maddalena Pennacchia, Edizioni scientifiche italiane)	6. 最初と最後の頁 95-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計39件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 佐々木和貴
2. 発表標題 挿絵から見た18世紀のシェイクスピア受容
3. 学会等名 日本シェイクスピア学会 シェイクスピア祭 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 岩田 美喜
2. 発表標題 イングランド演劇における異性装と女優
3. 学会等名 ブロンテ協会 関西支部 大会 (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 佐々木和貴
2. 発表標題 ギャリックのふたつの伝記をめぐって
3. 学会等名 日本ジョンソン協会 シンポジウム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 佐々木和貴
2. 発表標題 『尺には尺を』の仕掛けを読む
3. 学会等名 17世紀英文学会 東北支部例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川田潤
2. 発表標題 恐怖と笑い --商業化・政治化される幽霊譚
3. 学会等名 東北口マン主義文学・文化研究会シンポジウム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大和高行
2. 発表標題 長い18世紀演劇の訳書について - -ルネサンス期のそれと比較して
3. 学会等名 科研費基盤B(23H00614)「A Study of British Theatre Arts and Cultures in the long 18th Century」第1回研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大和高行
2. 発表標題 コリー・シバー作『リチャード3世』(1700年) 受容史 改作の意図とシバー版が後世に与えた影響
3. 学会等名 科研費基盤B(20H01242)「シェイクスピア崇拜」と18世紀イングランド娯楽ビジネス」第8回研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 岩田美喜
2. 発表標題 ギャリックと批評的行為としてのシェイクスピア記念祭
3. 学会等名 日本ジョンソン協会シンポジウム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松田幸子
2. 発表標題 ギャリックと18世紀のランドスケープ
3. 学会等名 日本ジョンソン協会シンポジウム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉原ゆかり
2. 発表標題 承前啓後のシェイクスピア映画
3. 学会等名 日本シェイクスピア学会セミナー
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 篠崎実
2. 発表標題 劇作家の仕事～ベン・ジョンソンの場合
3. 学会等名 科研費基盤(B) (23H00612) 「エリザベス朝演劇における劇作家の仕事」第1回研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 篠崎実
2. 発表標題 ポウブとシアポールド～『ハムレット』の本文をめぐって
3. 学会等名 科研費基盤(B) (20H01242) 「18世紀におけるシェイクスピア崇拜」研究 第8回研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 中野春夫
2. 発表標題 17世紀のエリザベス朝劇作家ランキング
3. 学会等名 科研費基盤(B) (20H01242) 「18世紀におけるシェイクスピア崇拜」研究 第7回研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 佐々木和貴
2. 発表標題 ペスト禍のシェイクスピア
3. 学会等名 十七世紀英文学会 東北支部2022年度例会 (オンライン)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐々木 和貴
2. 発表標題 Page と Stage 18 世紀のシェイクスピアをめぐる
3. 学会等名 日本英文学会中部支部 第 74 回大会シンポジウム (オンライン)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 栗山 智成
2. 発表標題 座付き作家シェイクスピアは『ハムレット』上演をいかに始めたか？
3. 学会等名 第60回シェイクスピア学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 栗山智成
2. 発表標題 ホガース作「リチャード3世としてのギャリック」再考
3. 学会等名 第 5 回「シェイクスピア崇拜」と18世紀シェイクスピア娯楽ビジネス研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 篠崎 実
2. 発表標題 テキストが語る創作の軌跡ーシェイクスピア複数テキスト劇の読解ー
3. 学会等名 2022年度シェイクスピア祭 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 篠崎 実
2. 発表標題 『ヘンリー五世』におけるシェイクスピアの仕事ぶり
3. 学会等名 第60回 シェイクスピア学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中野春夫
2. 発表標題 専属劇作家としてのシェイクスピアの仕事 シェイクスピアは材源の劇作品をどう(再) 利用したのか?
3. 学会等名 第60回 シェイクスピア学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩田美喜
2. 発表標題 ギャリックと批評的行為としてのシェイクスピア記念祭
3. 学会等名 第6回「シェイクスピア崇拜」と18世紀シェイクスピア娯楽ビジネス研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松田幸子
2. 発表標題 ブルーム『スパラガス・ガーデン』における都市のランドスケープ
3. 学会等名 2022年度17世紀英文学会全国大会(オンライン)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐々木 和貴
2. 発表標題 図像から見た『テンペスト』受容
3. 学会等名 十七世紀英文学会 東北支部 2021年度例会 (オンライン)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐々木 和貴
2. 発表標題 ウィリアム・シェイクスピア『テンペスト』
3. 学会等名 新英米文学会 第52回全国大会シンポジウム(オンライン)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐々木和貴
2. 発表標題 口ウ版全集の口絵の差し替えをめぐる
3. 学会等名 第59回日本シェイクスピア学会(オンライン)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuki Sasaki
2. 発表標題 The Reception of _The Tempest_ in the Eighteenth Century as seen through illustrations
3. 学会等名 International Conference: 'Shakespeare Worship' and the Entertainment Business in the Eighteenth Century England (Online)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 栗山 智成
2. 発表標題 『マクベス』を読む」
3. 学会等名 第59回シェイクスピア学会セミナー（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomonari Kuwayama
2. 発表標題 Shakespeare and Dance: From the Globe to the Global
3. 学会等名 World Shakespeare Congress 2021 (International Shakespeare Association) (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yukari Yoshihara
2. 発表標題 Shakespeare Cometh to Asia (1816 to 1964)
3. 学会等名 World Shakespeare Congress 2021(International Shakespeare Association) (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中野春夫
2. 発表標題 18世紀前半期のシェイクスピア受容
3. 学会等名 第59回シェイクスピア学会（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川田 潤
2. 発表標題 ニコラス・ロウと名誉革命以降の文化戦争
3. 学会等名 十八世紀英文学研究会例会（オンライン）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川田 潤
2. 発表標題 1710年前後のシェイクスピア
3. 学会等名 第3回「シェイクスピア崇拜」と18世紀シェイクスピア娯楽ビジネス研究会（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田 幸子
2. 発表標題 18世紀におけるシェイクスピアと 自然 : 風景の イギリスらしさ
3. 学会等名 第4回「シェイクスピア崇拜」と18世紀シェイクスピア娯楽ビジネス研究会（オンライン）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松田幸子
2. 発表標題 シェイクスピアの庭：私と彼のオーガニックな絆
3. 学会等名 第59回日本シェイクスピア学会（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田幸子
2. 発表標題 Shakespeare Gardens and Organic Evocation of Shakespeare
3. 学会等名 International Conference: 'Shakespeare Worship' and the Entertainment Business in the Eighteenth Century England(Online)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐々木和貴
2. 発表標題 2枚の『テンペスト』：N・ロウ版全集における口絵の差し替えをめぐる
3. 学会等名 科研費プロジェクト第2回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田幸子
2. 発表標題 The Tempestと17世紀における 島 の変容
3. 学会等名 日本英文学会第92回全国大会（シンポジウム口頭発表）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉原ゆかり
2. 発表標題 ファン参加型イベントとしてのシェイクスピア誕生祭と文化外交ー市河晴子の場合（1931年）
3. 学会等名 科研費プロジェクト第1回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐々木和貴
2. 発表標題 shakespeareからShakespearへ：その2
3. 学会等名 17世紀英文学会 東北支部 例会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 ウィリアム・シェイクスピア (編集) 佐々木和貴	4. 発行年 2023年
2. 出版社 大修館	5. 総ページ数 234
3. 書名 尺には尺を (大修館シェイクスピア双書第2集)	

1. 著者名 栗山 智成、廣野由美子 (共著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 230
3. 書名 『変容するシェイクスピア ラム姉弟から黒澤明まで』	

1. 著者名 栗山 智成	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 299
3. 書名 ウィリアム・シェイクスピア『冬物語』(翻訳)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

「シェイクスピア崇拜」と18世紀イングランド娯楽ビジネス
<http://www.elizabethan.sakura.ne.jp/18century/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松田 幸子 (Matsuda Yoshiko) (10575103)	高崎健康福祉大学・人間発達学部・准教授 (32305)	
研究分担者	中野 春夫 (Nakano Haruo) (30198163)	学習院大学・文学部・教授 (32606)	
研究分担者	大和 高行 (Yamato Takayuki) (30253371)	鹿児島大学・法文教育学域法文学系・教授 (17701)	
研究分担者	篠崎 実 (Shinozaki Minoru) (40170881)	千葉大学・大学院人文科学研究院・教授 (12501)	
研究分担者	桑山 智成 (Kuwayama Tomonari) (40388062)	京都大学・人間・環境学研究科・教授 (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岩田 美喜 (Iwata Miki) (50361051)	立教大学・文学部・教授 (32686)	
研究分担者	吉原 ゆかり (Yoshihara Yukari) (70249621)	筑波大学・人文社会系・教授 (12102)	
研究分担者	川田 潤 (Kawata Jun) (70323186)	福島大学・人間発達文化学類・教授 (11601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 International Conference: 'Shakespeare Worship' and the Entertainment Business in the Eighteenth Century England	開催年 2022年～2022年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------